

大学院看護学研究科 博士前期課程		授業 科目	現象学研究 Phenomenological Research			担当 教員	松葉 祥一 (専 任)
開講年次	1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	共通科目 研究方法科目	授業形態	講 義
選択必修	選 択	時間数	30時間			使用教室	
授業の目的及びねらい		<p>この授業の目的は、まず現象学そのものを学んだ上で、現象学の方法を看護研究に適用しうる可能性を検討することにあります。そのために、まず現象学の創始者であるフッサールと、その発展に貢献したメルロ＝ポンティの議論を見ていきたいと思ひます。次に現象学的方法を使った看護研究について、まず総論的な研究を、次に具体的な方法について論じた研究を、最後に実際に現象学的方法を使った研究の実例を見ていきたいと思ひます。</p> <p>授業は、参加者の一人による報告と、それに基づく討論を中心に進めます。全員が指定の論文や著作を読んでくる必要があります。</p>					
授業のキーワード		現象学、方法、フッサール、メルロ＝ポンティ、身体、解釈学					
講義回数	授 業 内 容 及 び 計 画						
第1回	(1) 現象学とは何か——フッサールを中心に						
第2回	(2) 現象学とは何か——看護と現象学						
第3回	(3) 現象学の方法(1)フッサール						
第4回	(4) 現象学の方法(2)フッサール						
第5回	(5) 現象学の方法(3)メルロ＝ポンティ						
第6回	(6) 現象学の方法(4)メルロ＝ポンティ						
第7回	(7) 現象学的看護研究(1)総論						
第8回	(8) 現象学的看護研究(2)総論						
第9回	(9) 現象学的看護研究(3)方法論						
第10回	(10) 現象学的看護研究(4)方法論						
第11回	(11) 現象学的看護研究(5)実例						
第12回	(12) 現象学的看護研究(6)実例						
第13回	(13) 現象学的看護研究(7)演習						
第14回	(14) 現象学的看護研究(8)演習						
第15回	(15) 現象学的看護研究(9)まとめ						
テキスト	竹田青嗣、『現象学入門』、NHK ブックス、1994年。これ以外のテキストは、授業中に指示します。						
参考文献	授業中に指示します。						
成績評価の方法と基準	評価は、報告や演習など授業への貢献(30パーセント)と、レポート(70パーセント)によって行ひます。レポートの評価基準は別に示します。						
教員から学生へのメッセージ	現象学手看護研究の方法を、演習などをまじえて説明します。積極的な参加を期待します。						